

### 11月29日(水) 赤星天満宮神楽

菊池の赤星菅原神社で、菊池市の無形民俗文化財にも指定されている赤星天満宮神楽があり、地元区民など大勢の人で賑わいました。毎年この日に合わせて行なわれているもので、地元子どもたちによる「赤星子ども神楽」に続き、地元赤星天満宮神楽連(福田幸二会長)のメンバー13人による「神舞」や「花米(はなよね)」など8座が次々と舞われました。会場では、女性部や消防団、ボランティアなどによるだご汁や割烹酒なども振舞われ、詰め掛けた観客の体を温めていました。

神楽連の福田会長は「地域の伝統行事なので後世に残していきたいし、この神楽を子どもたちに教えることでコミュニケーションにもなっています」と話されました。

また、福田会長など5人は、今年9月に韓国・金堤市で行われた「第8回金堤地平線まつり」に、菊池市の代表として出場し、約2万人の観客を前に「花米」や「弓御幣舞」を披露しました。



「神舞」を舞う赤星天満宮神楽連のメンバー

### 11月30日(木) 養護老人ホーム「ふじのわ荘」で人権寸劇

菊池市養護老人ホーム「ふじのわ荘」に特設人権相談所が開設され、相談を前に寸劇が披露されました。熊本地方法務局山鹿支局(森杉博光支局長)と山鹿人権擁護委員協議会(岩崎義郎会長)が主催して、人権相談を受ける機会がなかった高齢者施設や知的障害者更生施設などの入所者が気軽に相談を受けられることを目的に行われたものです。

寸劇では、同協議会男女共同参画推進委員約10人が施設内で起きた出来事から「人を疑うことがいかにいけないことか」を訴えました。

午後からは特設人権相談所が開設され、入所者約40人が係員に悩みごとなどを相談しました。

今後も、同様の取り組みが行われていく予定です。



寸劇「ある日の出来事」を披露するメンバー

### 12月1日(金) 花房小で「人権の花」から取れた種を大空へ

花房小学校(福田哲朗校長)で全校児童103人と熊本地方法務局山鹿支局(森杉博光支局長)職員・山鹿人権擁護委員協議会(岩崎義郎会長)のメンバー約20人が参加して、これまで育ててきた「人権の花」から取った種をエコ風船につけて大空へ飛ばしました。

小学生が「人権の花」を育てることにより人権尊重の理解を深め、豊かな人権感覚を身につけることを目的に、同法務局山鹿支局と同協議会が管内の小中学校で毎年行っているもので、今年は花房小学校で行われました。

児童たちは、4月に交付を受けたひまわりやコスモスなど6種類の種を学年ごとの花壇に植え、これまで思いやりを持って大切に育ててきました。

運動場に集合した児童たちは、エコ風船に「このたねで、まちをきれいにしてください」などと書いた種入り封筒をつけ「1・2・3」の号令で一斉に大空へ飛ばしました。



種が入った風船を飛ばす児童たち

### 11月3日(祝)~11月5日(日) 第2回菊池市文化祭

2回目となる菊池市文化祭が、菊池・七城・旭志・泗水の各会場で開催されました。

今回は文化協会合併後初めての文化祭前夜祭として、2日(木)の午後6時30分から文化会館大ホールで4支部合同の開会式が行なわれました。

その後各支部から、日舞・フラダンス・民謡・箏演奏・コーラス・着物着付けと多彩な出し物があり、2時間に及ぶ演芸大会で文化祭の幕を開けました。

3日(祝)からは各支部の会場で絵画・書道・生花をはじめ小・中学生や老人クラブの作品なども交え、各支部それぞれに特徴のある展示や歌や踊りなど多くの舞台での演芸が行なわれました。

各会場とも、市民文化活動の1年間の芸の成果が披露され、多くの観客で賑わいました。



前夜祭で披露された旭志支部の「ホテルセレナーデ」



言志堂紫水流(けんしどうしゅうすいりゅう)による構成吟(こうせいごん)



七城小学校体育館での展示



旭志少年少女合唱団(あさひししょうにゅうごうだん)による合唱



泗水体育館での展示

### 11月22日(水) 泗水小・泗水中で コミュニティ・スクールの研究発表会

泗水小学校(百原和敏校長)と泗水中学校(西岡宏二校長)で、九州各県の小・中学校教師や行政関係者、地域の人などが参加してコミュニティ・スクールの研究発表会がありました。

各クラスごとの公開授業や全体会をとおしてこれまでの取り組みが発表されました。

その中のひとつ、泗水小学校6年生が総合的な学習の時間で取り組んだ「科学技術を学ぼう~ロボット学習~」では、ゲストティーチャーとして熊本電波高専の教師が招かれ、6年生児童がほぼ1人に1台ずつのロボットを作成しました。

泗水体育館であった公開授業では、見せる・走る・運ぶの3部門に別れて、ロボットを作成した児童自らが操作し、勝ち抜き戦で競技に挑みました。

子どもたちは「本当に楽しみながら作ることができました」と目を輝かせて話してくれました。同小・中学校は、平成17・18年度の2年間、文部科学省が指定する「コミュニティ・スクール推進事業」の指定を受けており、全国に先駆けて地域に根ざした教育に取り組んでいます。



泗水体育館での公開授業で「スロープの先のかごに時間内にいくつボールを運べるか」の競技に挑む児童たち